

様式3 実践事例

肝付町立内之浦小学校 第3・4学年

【授業実践のポイント】

- ① 児童が道徳的価値の理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考えることができるように活動内容を明確にした。
- ② 児童の話合い活動を活性化させるために，ICT機器を適切に活用できるように工夫した。

1 主題名「ボランティアとは」[B(6) 親切・思いやり]

(1) 本教材名「ええことするのはええもんや」(日本文教出版「生きる4」)

(2) 本時のねらい

人に親切にすることは立派なことだが，それだから親切にするのではなく，助けられた人がうれしいから親切にするのだということに気付き，進んで親切にしようとする態度を養う。

2 授業の展開

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 親切について考える。 2 本時のめあてをたてる。	(分) 3	○ 学級の実態から，本時の授業で考える価値を捉えさせるために，アンケートの結果を提示する。 【電子黒板】 ○ 本時の内容を焦点化させるために，めあてをたてる。
	親切にすることのよさについて考えよう。		
展開	3 教材を読んで，考え，話し合う。 (1) 今日の学習でじっくり考えてみたいことを共有する。 (2) 親切にするときは「誰かが見ているとき」か「誰も見ていなくても」について，自分の考えを表す。	15	○ みんなの意見を可視化させるために，ロイロノートの共有ノートを使い，親切にするときは「誰かが見ているとき」か「誰も見ていなくても」について，どちらに自分の考えが近いか，名前を書いたシートを置いて表すようにする。 【タブレット，電子黒板】 ○ 友達と話し合う中で，自分の考えが変化した際には，ロイロノート上のシートを動かすように説明する。 【タブレット】
	(3) 車いすを押しているときのマナブの気持ちを考え，話し合う。		
	4 話合いの内容をまとめる	12	
終末	5 本時の振り返りをする。	10	○ 児童が進んで親切にした場面の様子を話すことにより，親切な行為をより身近なものとして捉え，実践しようとする態度を高められるようにする。 【電子黒板】
	6 学級の児童の様子を紹介する。	5	

十月二十八日 金曜日
めあて

親切にするときは、どんな気持ちが大切だろうか。

ええことするのは、ええもんや

がんばっているから、みんなにみてほしい。
ボランティアをしようと思ったな。
これなら一人でもかたんにできる。

どうして誰も見てくれないんだ。
ボランティアをしなければ良かった。
二人にも手伝ってもらえば良かった。

だれも見てくれない。

みんなが見てくれている

マナブ

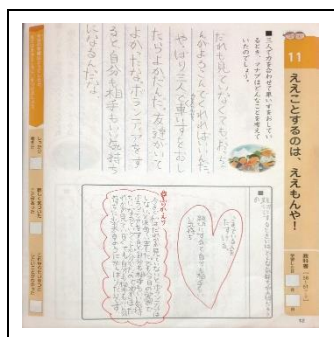
誰が見てくれるとかではなく、困っている人を見かけたら助けることが大切だ。

困っている人を見かけたときは、親切にする。

親切にすると、自分も相手もいい気持ち。

単に行動目標を立てるというのではなく、親切にするときの心構えも考え親切な行為の意味について考えを深められるようにする。

葛藤場面について主人公の気持ちを考えさせるために、多くの人に励まされているときと、誰も見てくれない坂道を進んでいるときのそれぞれの主人公の気持ちを対比的に考えさせる。



〈ワークシート〉

中心発問を活用し、自分の考えをまとめ、振り返りのときに道徳的価値についてふれる。



〈ICT機器の活用〉

ICT機器を活用して、お互いの考えを共有する。

3 実践を終えて

(1) 成果

- ア ICT機器を効果的に活用することができた。
- イ 振り返りで、児童が今までの気持ちと変わったことを発表することができた。

(2) 課題

- ア ICT機器を使い、個々で話し合うことができたが、全体で共有する場面がなかった。授業をしっかりとデザインし、児童が共感したことや不思議に思ったことなどを発表する場を作る必要がある。
- イ アンケートを提示し、教師主導で導入を行ったが、児童の言葉で自由に語らせることも大事である。教材研究をしっかりと行い、資料の分量や時間配分を考え、授業をデザインする。